生徒困惑「数学でも読解力」

共通テスト試行調査

「いまの授業では解けない」

2020年度から始まる大学入学共通テストの試行調査の問題が公表され、知識の活用を重視する新しい入試の方向性が見えてきた。受けた高校生や学校からは「今の授業のままでは解けない」との声が上がり、予備校関係者は試験の難化による受験生の二極化を懸念する。

▼1面参照

数学Ⅱ・数学Bの問題文は22ジと、今年のセンター試験と比べ1・5倍以上になり、グラフも増えた。

東京都立町田高では、3年生40人が受験。一戸碧生さん(18)は「文脈の中から必要な情報を取り出す読解力が必要。数学らしくない」と驚いた。数列などを使って薬の服用によって有効成分が血中に残る量を計算し、服用の間隔や量を変えた場合の効果や副作用を答える問題などが出た。

現在の授業は公式や定理を使って問題を解くことが中心だ。同校3年生の中野日香理さん(18)は「いまの高校の授業では、この問題は解けない」と話した。

「大学入学共通テスト」に向けた試行調査を受ける生徒たち＝11月13日、大阪市内の府立高校

山形県立上山明新館高では2年生40人が数学Ⅰ・Aを受けた。予備校が多い都市部と違い、地方の高校は大学受験に向けて担う役割も大きい。大沼政教頭(56)は「授業の中で、複数の資料から問題の意図を読み取る時間をつくるなどの対応を考えたい」と話す。

代々木ゼミナール大阪南校（大阪市）の藤田勝宏・数学研究室長は「計算力を問う問題が減り、数学でも『国語力』が問われる問題が増えた」と受け止める。「一つ一つの問題の難易度が上がったわけではないが、長文の読解ができる上位の生徒と、中下位の生徒の間で差が出やすいのではないか」と指摘。センター試験を受ける最後の世代となる今の高校1年生について、「浪人を避けるために志望校のレベルを下げる生徒が増えるのでは」と話す。

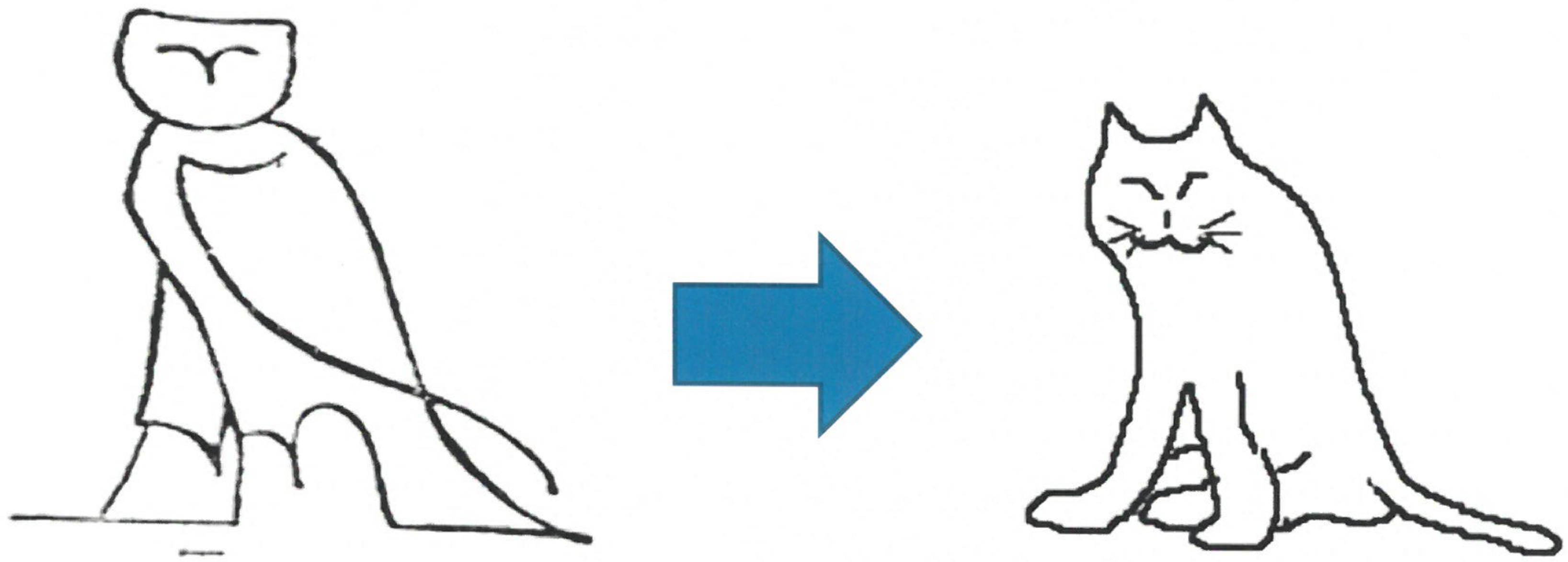
大阪府内の私立高に通う高校3年生の男子生徒(18)は国語を受けた。記述式は聞いていたが、それ以外の出題の変化にも驚いた。漢文では高校生がまとめた想定の資料の読み取りがあり、「こんな問題は初めて」。センター試験よりも

朝日新聞 2017年12月5日

この絵を見ながら、絵を写していく。その後、自分の書いた絵を
次の人に見せ、同じように写していく。
数名の伝言（絵を写す）でどう変わっていくだろうか。正確に伝わるか？

バートレットの再生リレー実験から

Bartlett 1932



つまり、人の記憶の再現は、
事実の再現ではなく、スキーマ（思考や記憶）に合わせて
変容するのである。

バートレット（**Bartlett** 1932）

次期学習指導要領では

その視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」ということであり知識・技能、思考力・判断力・表現力等学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものの全てを、いかに総合的に育んでいくかということである。

中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理（2015）